

IPBES 第 7 回総会結果報告会

令和 1 年 5 月 14 日（火）14:00～15:00

経済産業省別館 312 号会議室

議 事 次 第

1. 開 会

2. 議 事

- (1) IPBES 総会第 7 回会合結果概要
- (2) 地球規模評価報告書 SPM 概要
- (3) IPBES 新作業計画概要
- (4) 専門家所見
- (5) その他
 - 侵略的外来種に関するテーマ別評価
 - アジア・オセアニア地域能力養成事業
- (6) 質疑応答

3. 閉会

(配布資料)

- 資料 1 IPBES 総会第 7 回会合結果概要
- 資料 2 地球規模評価報告書 SPM 概要
- 資料 3 IPBES 新作業計画概要
- 資料 4 専門家所見
- 資料 5 侵略的外来種に関するテーマ別評価
- 資料 6 アジア・オセアニア地域能力養成事業

生物多様性及び生態系サービスに関する
政府間科学－政策プラットフォーム
(IPBES: イプベス)
総会第7回会合結果概要について



令和元年5月14日
環境省自然環境局

IPBESの概要

- 正式名称**
 生物多様性及び生態系サービスに関する政府間
 科学－政策プラットフォーム
 Intergovernmental Science-Policy Platform on Biodiversity
 and Ecosystem Services
- 組織形態**
 独立した政府間組織(参加国が設立)
- 目的**
 生物多様性や生態系サービス※の現状や変化を
 科学的にアセスメントし、政策提言を含む報告書
 を作成 (**生物多様性版のIPCC**)
※ 生態系サービスとは、「自然からの恵み」であり、供給(食料、燃料、水など)、調節(気候、土壌保全、病害虫抑制など)、文化(精神的、審美的価値など)、基盤(土壌形成、光合成など)の4分類で説明される。
- 実施方法**
 アセスメントのテーマ※ごとに公募で選出された
 世界レベルの自然科学者・社会科学者等が、既
 存の論文等の知見を集約
※ 例えば、土地劣化と再生など



IPBESの実施するアセスメントの実施状況

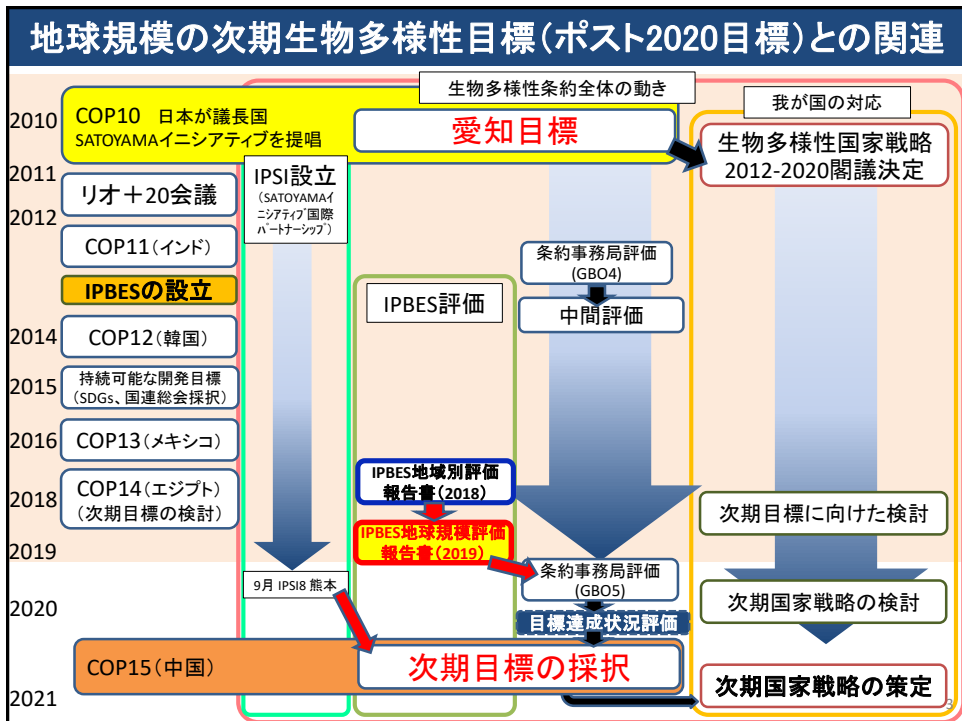
完成したもの

- 2016: 生物多様性・生態系サービスのシナリオ・モデルの方法論のアセスメント報告書(シナリオ(仮定的状況)とモデル(現象の関係性を簡略化して表したのもの)による将来予測の有用性・使い方を評価)
- 花粉媒介・食料生産に関するアセスメント報告書
(野生動植物種の多くがミツバチ等の花粉媒介に頼っているが、その出現頻度や多様性が低下している地域があること等を評価)
- 2018: 生物多様性・生態系サービスに関する地域別アセスメント報告書
(アジア・オセアニア地域では森林面積に増加傾向が見られる一方で海洋の生物多様性が劣化している状況等を評価)
- 土地劣化と再生に関するアセスメント報告書
(人間活動による陸地の劣化が人々の福利に悪影響を与えていること等を評価)
- 2019: **生物多様性・生態系サービスに関する地球規模アセスメント報告書**

今後開始されるもの(完成予定年)

- 2022: 自然とその恵みに関する多様な価値評価に関する方法論のアセスメント報告書
- 野生種の持続可能な利用に関するアセスメント報告書
- 2023: 侵略的外来種に関するアセスメント報告書

2



日本の貢献

日本は、拠出金、人的支援、評価に関する途上国の能力養成等によりIPBESに貢献。

<国際的な取組>

1. IPBESへの拠出

- IPBESの運営・作業実施（2013～）：2018年 約17万ドル（約1900万円）
- 「アジア・オセアニア地域アセスメント」のための技術支援機関（※）の運営（2015～2019年）及び「侵略的外来種アセスメント」のための技術支援機関の運営（2019～）：2018年 約2000万円
IPBES事務局への日本人職員（JPO）の派遣：2018年 約20万ドル（約2200万円）

2. 国連教育科学文化機関（UNESCO）への拠出

- IPBESによるアセスメント報告書作成、知識の創出、価値や利益に関する概念化等を促進するプロジェクト（2012～2018年）を支援：約56万ドル（約6160万円）

3. （公財）地球環境研究戦略機関（IGES）の活動

- IPBESアジア・オセアニア地域アセスメントの促進を目的に、途上国での能力構築に関するプロジェクト（2016～2019年）を支援：100万ドル（約11,000万円（生物多様性日本基金より））

<国内の取組>

1. IPBES国内連絡会（国内専門家、関係省庁間の情報交換）の開催

2. 環境研究総合推進費による「社会・生態システムの統合化による自然資本・生態系サービスの予測評価」（S-15研究、H28～32年度）の実施

4

第7回総会（本年5月・パリの結果）について

日時：2019年4月29日（月）～5月4日（土）

場所：パリ（フランス）

主な成果：

(1) 生物多様性と生態系サービスに関する地球規模アセスメント

政策決定者向け要約（Summary for Policy Makers：SPM）の承認

(2) 次期作業計画のアセスメント等のテーマとして以下を決定（2030年まで）

- ・生物多様性、水、食料、健康の相互関係（2019年にスコーピング、その後4年で報告書作成）
- ・生物多様性の損失の根本的要因、変革の決定要因、生物多様性2050ビジョン達成のためのオプション（2019年にスコーピング、その後3年で報告書作成）
- ・ビジネスが、生物多様性と自然が人にもたらすものに与える影響（2021年にスコーピング、その後2年で報告書作成）
- ・生物多様性と気候変動の関連性（2019年から2年で報告書作成）

5

「地球規模アセスメント」のポイント(1)

1. 自然がもたらすもの※は世界的に劣化している。

○自然がもたらすものとして、世界中で過去に例を見ないほど多くの食料、エネルギー、材料が、人々に供給されるようになったが、このことは、将来にわたりこうしたものをもたらす自然の能力を犠牲にするとともに、その他の多くの恵み(水質調整から自然との関係性まで)を損なうことになる。

○人類がよりどころとする生物圏は、あらゆる空間スケールで比類のない程に改変されている。

○人類史上これまでにないスピードで生物多様性が減少している。

- ・評価された動植物種のうち、約100万種が絶滅の危機にある。
- ・生息地、花粉媒介動物、病害虫、漁業資源、遺伝資源等で大きな劣化傾向にある。

※「自然がもたらすもの(NCP: Nature's contributions to people)」は、IPBESにおいて生態系サービスとほぼ同義の用語として使用されており、自然がもたらす負の影響も含まれている。

6



7

「地球規模アセスメント」のポイント(2)

2. 自然の変化を引き起こす直接的・間接的要因は、過去50年の間に加速している。

- 過去50年間の地球規模での自然の変化は、人類史上前例のない速度で進行している。
- 地球規模で自然の変化に大きな影響を与えている直接的な要因は、大きい順に①陸と海の利用の変化、②生物の直接的採取、③気候変動、④汚染、⑤外来種の侵入である。
- これらの直接的な要因は、①生産・消費パターン、②人口動態、③貿易、④技術革新、⑤地域から世界的な規模でのガバナンスなどの間接的要因の影響を受けている。
- これらの直接的・間接的要因の変化の速度は、地域や国によって異なる。

8

「地球規模アセスメント」のポイント(3)

3. このままでは自然保護と自然の持続可能な利用に関する目標は達成されない。しかし、経済・社会・政治・科学技術における横断的な社会変容 (transformative change) により、2030年そしてそれ以降の目標を達成できる可能性がある。

- 現在も続く生物多様性の減少のため、愛知目標、SDGsのような自然と持続可能性に関する国際的な社会目標は、現在の取組のままでは達成されない。パリ協定や2050年ビジョン等の他の目標の達成も危うい。
- 急速な人口増加、持続的ではない生産と消費や関連する技術開発などの間接的要因が継続した場合、生物多様性の減少の継続や加速が予測される。
- 一方で、ゆるやかな人口増加、エネルギー・食料・飼料・繊維・水の生産と消費のあり方の変革、自然と調和する気候変動適応と緩和、持続可能な利用、利用による利益の衡平な共有は、将来の社会的・環境的な目標の達成に資するであろう。

9

「地球規模アセスメント」のポイント

Goal	Target	Target element (abbreviated)	Poor	Moderate	Good	
A. Addressing the underlying causes of biodiversity loss	1	1.1	Awareness of biodiversity			
		1.2	Awareness of steps to conserve			
	2	2.1	Biodiversity integrated into planning			
		2.2	Biodiversity integrated into reporting			
B. Improving the management of natural resources	3	3.1	Harmful subsidies eliminated and reformed			
		3.2	Positive incentives developed and implemented			
	4	4.1	Sustainable production and consumption			
		4.2	Use with safe ecological limits			
C. Reducing direct pressures on ecosystems	5	5.1	Habitat loss at least halved			
		5.2	Degradation and fragmentation reduced			
	6	6.1	Fish stocks harvested sustainably			
		6.2	Recovery plans for depleted species			
D. Promoting ecosystem resilience and razing sustainable	7	7.1	Aquaculture is sustainable			
		7.2	Aquaculture is sustainable			
	8	8.1	Forestry is sustainable			
		8.2	Forestry is sustainable			
E. Tackling climate change to reduce biodiversity loss	9	9.1	Pollution not detrimental			
		9.2	Forest ecosystems not detrimental			
	10	10.1	Invasive alien species prioritized			
		10.2	Invasive alien pathways prioritized			
F. Safeguarding and restoring land, ocea and marine ecosystems	11	11.1	Invasive species controlled or eradicated			
		11.2	Invasive introduction pathways managed			
	12	12.1	Pressures on coral reefs minimized			
		12.2	Pressures on vulnerable ecosystems minimized			
G. Promoting sustainable consumption and production patterns	13	13.1	13 per cent of terrestrial areas conserved			
		13.2	17 per cent of terrestrial areas conserved			
	14	14.1	Protected areas, ecologically representative			
		14.2	Protected areas, effectively and equitably managed			
H. Promoting the benefits of biodiversity and ecosystem services	15	15.1	Protected areas, well-connected and integrated			
		15.2	Extinctions prevented			
	16	16.1	Conservation status of threatened species improved			
		16.2	Genetic diversity of cultivated plants maintained			
I. Integrating biodiversity into all policies and planning	17	17.1	Genetic diversity of farmed animals maintained			
		17.2	Genetic diversity of wild relatives maintained			
	18	18.1	Genetic diversity of valuable species maintained			
		18.2	Genetic ecosystem maintained			
J. Enhancing resilience and promoting sustainable development	19	19.1	Ecosystems providing services restored and safeguarded			
		19.2	Taking account of women, IPLCs, and other groups			
	20	20.1	Ecosystem resilience enhanced			
		20.2	10 per cent of degraded ecosystems restored			
K. Enhancing the resilience and promoting sustainable development	21	21.1	Nagoya Protocol in force			
		21.2	Nagoya Protocol operational			
	22	22.1	NBSAPs developed and updated			
		22.2	NBSAPs adopted as policy instruments			
L. Enhancing the resilience and promoting sustainable development	23	23.1	NBSAPs implemented			
		23.2	I,K and customary use respected			
	24	24.1	I,K and customary use integrated			
		24.2	IPLCs participate effectively			
M. Enhancing the resilience and promoting sustainable development	25	25.1	Biodiversity science improved and shared			
		25.2	Biodiversity science applied			
	26	26.1	Financial resources for Strategic Plan increased			
		26.2	Financial resources for Strategic Plan increased			

愛知目標の20の目標を53の要素に分けた場合の進捗率 (Figure 6. より)

※参考として、2014年時点の中間評価 (GBO4:地球規模生物多様性概況第4版 SBSSTA) との比較を青文字で記載 (56要素に分けた進捗率)

- ・「poor」(進捗がほぼ無い、全く無い)
 - ・・・20/53 (15/56)
- ・「moderate」(進捗は見られるが十分、十分な進捗が一部側面や地域に限られる)
 - ・・・19/53 (33/56)
- ・「good」(地球規模で十分な進捗傾向)
 - ・・・5/53 (5/56)
- ・「unknown」(情報不足)
 - ・・・9/53 (3/56)

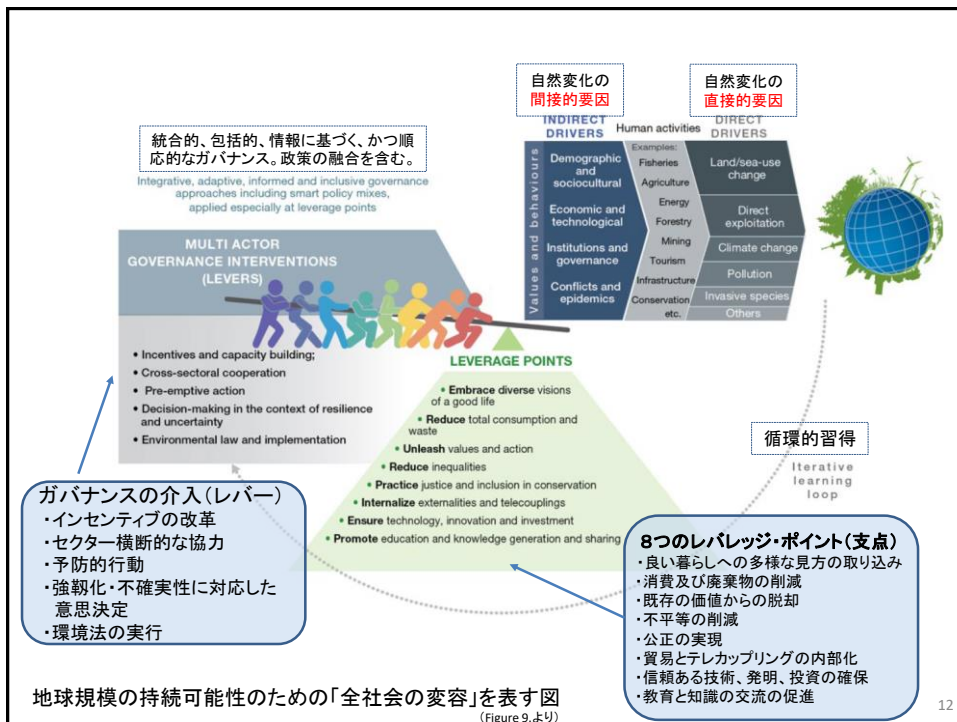
10

「地球規模アセスメント」のポイント(4)

4. 社会変容 (transformative change) を促進する緊急かつ協調的な努力が行われることで、自然を保全、再生、持続的に利用しながらも同時に国際的な社会目標を達成できる。

- 食料、水、エネルギー、健康、良好な生活の質の実現、気候変動や自然保護の課題への対策等の国際的な社会目標は、社会の変容を伴う道のりをたどれば、達成は可能である。
- 現在の構造は、持続可能な社会の実現や生物多様性減少の間接的な要因に向けた取組みを抑制するため、根本的・構造的な社会の変容が必要である。社会の変容は現状の既得権益の反対が予想されるが、そのような反対はより大きな公益により克服可能である。
- その克服がなされることにより、相互に支え合う国際目標、先住民や地域コミュニティの活動の支援、民間の投資と発明のための新たな枠組み、包括的・順応的なガバナンスと取り決め、多部門の計画、戦略的な政策統合の推進が、公共・民間部門の変革による地域国そして世界規模での持続可能性の達成に貢献する。

11



12

「地球規模アセスメント」で示された主な数値データ

- ・地球上に800万種いる動植物のうち、100万種が絶滅の危機にある。
- ・16世紀以降(1500年以降)に、少なくとも680種の脊椎動物が絶滅した。
- ・過去1千万年の平均よりも数十倍～数百倍、絶滅の速度が加速している。
- ・世界の陸地面積の75%が著しく改変され、海洋の66%が累積的な影響を受け、湿地の85%が消失した。
- ・気温上昇を2度に抑えても、生物種の5%に絶滅リスクが生じ、サンゴ礁の面積は1%まで縮小する。
- ・記録されている家畜哺乳類6190品種のうち559品種(9%を上回る割合)が2016年までに絶滅した。加えて、少なくとも1000品種が危機に瀕している。

13

IPBES 地球規模評価報告書 SPM概要

IPBES: 生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム
SPM: 政策決定者向け要約

市井 和仁

千葉大学 環境リモートセンシング研究センター

出典

Summary for policymakers of the global assessment report on biodiversity and ecosystem services (Advance unedited version as of 6 May 2019)

IPBES 地球規模評価報告書の重要性

IPBES - 国連環境計画(UNEP)により 2012年に設立

生物多様性と生態系サービスに関する動向を科学的に評価し、科学と政策のつながりを強化する政府間のプラットフォームとして、2012年4月に設立された政府間組織。IPCCの例から、「**生物多様性版のIPCC**」とされることもある。

IPBES Global Assessment (地球規模評価報告書)

50か国145名の専門家著者により、2016年より執筆開始
科学的な成果などに基づき、**システムティックレビュー**により、客観性・透明性を確保
2回の外部レビュー（誰でも参加可能）
IPBES第7回総会（2019/04/29-05/04 パリ）における政府間会合において
SPMが承認された

Keyword:**自然がもたらすもの (NCP: Nature's Contribution to People)**

IPBES第5回総会で加盟国より承認された概念で、地球規模評価報告書と、今後すべての科学評価で使用されることが決定している

世界各地の人々が持つ文化的背景に起因する生態系サービスに対する見解の相違を超え、自然が人々の生活の質に与える影響の正負の影響をとらえるために提唱された概念

IPBESでは、
①物質的な寄与
②非物質的な寄与
③環境調節的な寄与
として評価。

18の報告区分を定義。



[Diaz et al. 2018]

SPM キーメッセージの構成

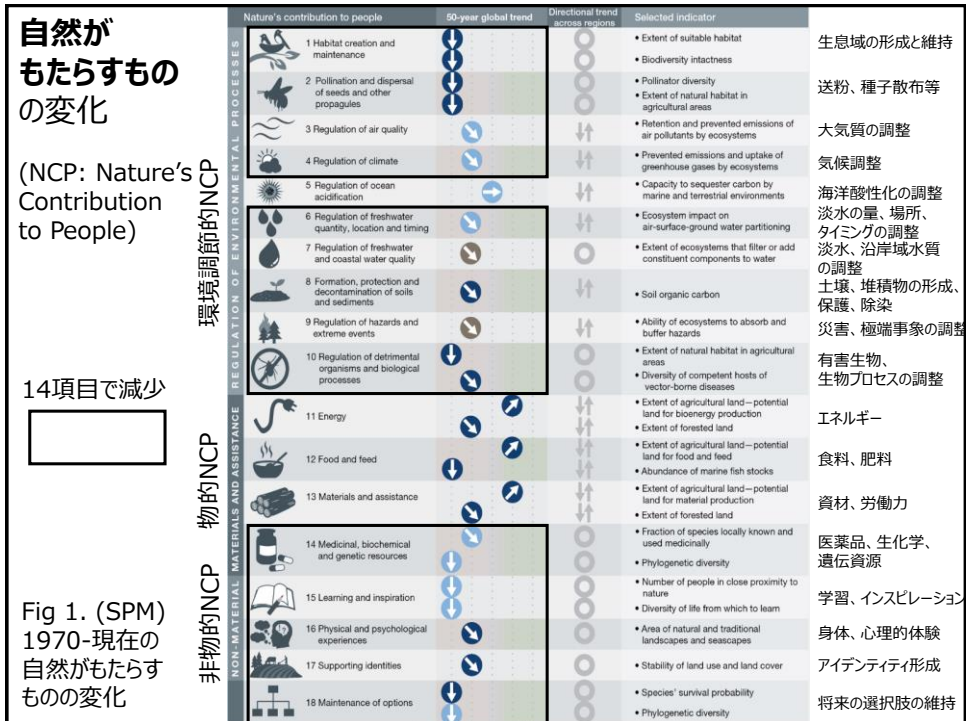
(SPMメッセージ)

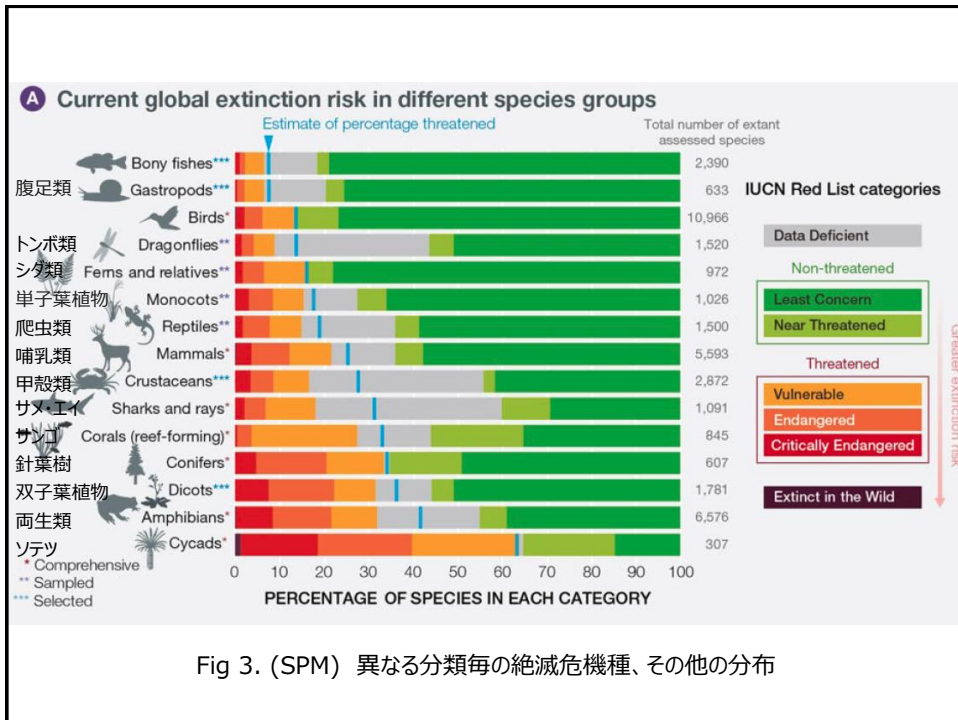
(概要)

A) 自然、ならびに自然がもたらすものは、世界的に減少している	自然と自然がもたらすものの変化
B) 自然の変化を引き起こす直接的および間接的な要因は、過去50年で急速に高まっている	要因の変化
C) このままでは愛知目標やSDGsは達成できない。2030年以降の目標(SDGs, バリ協定, 生物多様性条約2050年ビジョン)に向けて、経済、社会、政治、技術にわたる“変革”が求められる	国際目標達成への見込み
D) 変革を促す協調的な努力を今すぐ始めることで、自然の保全、再生と持続的な利用と国際的な社会目標達成を両立できる	国際目標達成に向けて

A. 自然、ならびに自然がもたらすものは、世界的に減少している

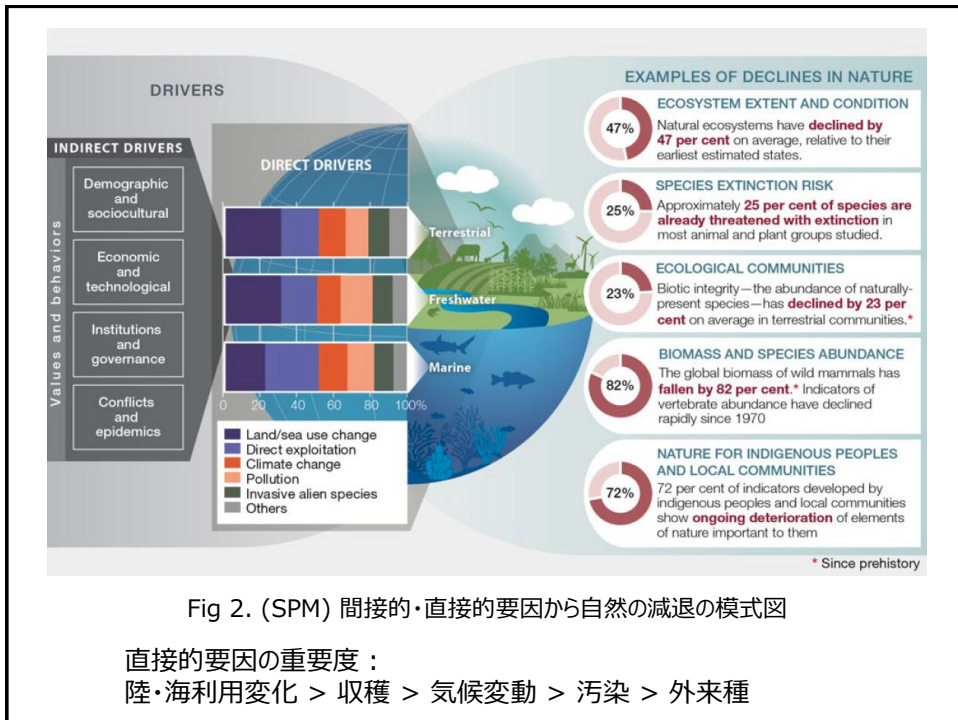
- 自然は人々の存在と良質な生活のために不可欠。自然がもたらすもの(NCP)の大部分は完全には置き換えができない、中には、全く置き換えできないものもある。
- 自然がもたらすもの(NCP)は、時間・場所・異なる社会層に偏って分布する。NCPの生産・利用にはトレードオフが伴う。
(例; 貧富の差, 生産増⇔多様性減)
- 1970年以降, 農業生産・漁獲・バイオエネルギーなどは増加。しかし, 自然がもたらすもの(NCP)は18項目のうち14項目で減少。(Fig 1)
- 世界中のほとんどの自然は人為的に改変され、生態系・生物多様性の多くの指標は急速に低下している。例: 人為改変; 陸の75%, 海の66%; 湿地の85%消失
- 人間活動はこれまで以上に地球規模での絶滅を引きおこしている (Fig 3)
例: 評価した種の25%が絶滅危機 (→100万種が絶滅危機)
- 作物や家畜の品種の減少と食料安全保障のリスク, 地球全体の生物群集の均質化
- 急速な生物学的進化と高まるリスク





B. 自然の変化を引き起こす直接的および間接的な要因は、過去50年で急速に高まっている

- 自然の変化の直接要因： 陸・海利用変化 > 収穫 > 気候変動 > 汚染 > 外来種 (Fig 2)
- 陸地と淡水域の生態系変化の主要因は土地利用変化と直接採取（伐採、狩猟、漁獲など）、沿岸と海洋の変化の主要因は直接採取（漁獲など）と陸・海利用変化
- 気候変動は直接要因の一つ。他の直接要因が自然や暮らしに与える影響を悪化させる
- 汚染や侵略的外来種が増加、自然に悪影響を与えている
- 過去50年間で人口倍増、経済は4倍、貿易は10倍に増加し、経済成長、貿易増加によりエネルギーと資源の需要が増加
- 経済的インセンティブは経済活動を拡大するが環境に負の影響：自然のもつ多様な価値を取り入れた経済的インセンティブにより生態的、経済的、社会的に改善する
- 先住民の土地では自然の減少は緩やかだが、圧力が高まり、自然を管理するための先住民の知識は減少している



C. このままでは愛知目標やSDGsは達成できない。2030年以降の目標(SDGs, パリ協定, 生物多様性条約2050年ビジョン)に向けて、経済、社会、政治、技術にわたる“変革”が求められる

- 自然の保全と持続可能な利用のための現行政策の効果はあるが、自然の劣化を引き起こす要因を食い止めるには不十分。2020年愛知目標はほとんどを達成できない可能性が高い(Fig 6)
- 自然の減少はSDGs1, 2, 3, 6, 11, 13, 14, 15に向けた前進を妨げる。このうち80%(Fig 7)で目標達成の進捗を脅かしている。
- 地球規模の自然減少に重大な影響を受けるのは、先住民や貧困層居住地域
- 変革を想定したシナリオ以外では、自然や自然の寄与が2050年以降も減少
- これから数十年で気候変動の重大性が増す：SDGsや生物多様性2050年ビジョンの達成に向けた行動に織り込むことが大事

Goal	Target	Target element (abbreviated)	Poor	Moderate	Good
A. Address the underlying drivers	1	1.1 Awareness of biodiversity			
		1.2 Awareness of steps to conserve			
	2	2.1 Biodiversity integrated into planning			
		2.2 Biodiversity integrated into accounting			
		2.3 Biodiversity integrated into reporting			
	3	3.1 Harmful subsidies eliminated and reformed			
		3.2 Positive incentives developed and implemented			
	4	4.1 Sustainable production and consumption			
		4.2 Use within safe ecological limits			
	B. Reduce direct pressures	5	5.1 Habitat loss at least halved		
5.2 Degradation and fragmentation reduced					
6		6.1 Fish stocks harvested sustainably			
		6.2 Recovery plans for depleted species	Unknown		
		6.3 Fisheries have no adverse impact			
7		7.1 Agriculture is sustainable			
		7.2 Aquaculture is sustainable			
		7.3 Forestry is sustainable			
8		8.1 Pollution not detrimental			
		8.2 Excess nutrients not detrimental			
9		9.1 Invasive alien species prioritized			
		9.2 Invasive alien pathways prioritized	Unknown		
	9.3 Invasive species controlled or eradicated				
10	9.4 Invasive introduction pathways managed				
	10.1 Pressures on coral reefs minimized				
	10.2 Pressures on vulnerable ecosystems minimized				

Fig 6. (SPM) 2020年愛知目標に向けての進捗状況 (1/2)

10	10.1 Pressures on coral reefs minimized				
	10.2 Pressures on vulnerable ecosystems minimized				
C. Improve biodiversity status	11	11.1 10 per cent of marine areas conserved			
		11.2 17 per cent of terrestrial areas conserved			
		11.3 Areas of importance conserved			
	12	11.4 Protected areas, ecologically representative			
		11.5 Protected areas, effectively and equitably managed			
		11.6 Protected areas, well-connected and integrated			
D. Enhance benefits to all	12	12.1 Extinctions prevented			
		12.2 Conservation status of threatened species improved			
	13	13.1 Genetic diversity of cultivated plants maintained			
		13.2 Genetic diversity of farmed animals maintained			
		13.3 Genetic diversity of wild relatives maintained			
		13.4 Genetic diversity of valuable species maintained	Unknown		
		13.5 Genetic erosion minimized			
14	14.1 Ecosystems providing services restored and safeguarded				
	14.2 Taking account of women, IPLCs, and other groups	Unknown			
15	15.1 Ecosystem resilience enhanced	Unknown			
	15.2 15 per cent of degraded ecosystems restored	Unknown			
16	16.1 Nagoya Protocol in force				
	16.2 Nagoya Protocol operational				
E. Enhance implementation	17	17.1 NBSAPs developed and updated			
		17.2 NBSAPs adopted as policy instruments			
		17.3 NBSAPs implemented			
	18	18.1 ILK and customary use respected			
		18.2 ILK and customary use integrated	Unknown		
		18.3 IPLCs participate effectively	Unknown		
19	19.1 Biodiversity science improved and shared	Unknown			
	19.2 Biodiversity science applied	Unknown			
20	20.1 Financial resources for Strategic Plan* increased				

Fig 6. (SPM) 2020年愛知目標に向けての進捗状況 (2/2)






Selected Sustainable Development Goals	Selected targets (abbreviated)	Recent status and trends in aspects of nature and nature's contributions to people that support progress towards target *		Uncertain relationship
		Poor/Declining support	Partial support	
 No poverty	1.1 Eradicate extreme poverty			U
	1.2 Halve the proportion of people in poverty			U
	1.4 Ensure that all have equal rights to economic resources			
	1.5 Build the resilience of the poor			
 Zero hunger	2.1 End hunger and ensure access to food all year round			
	2.3 Double productivity and incomes of small-scale food producers			
	2.4 Ensure sustainable food production systems			
	2.5 Maintain genetic diversity of cultivated plants and farmed animals			
 Good health and well-being	3.2 End preventable deaths of newborns and children			U
	3.3 End AIDS, tuberculosis, malaria and neglected tropical diseases			U
	3.4 Reduce premature mortality from non-communicable diseases	Unknown		
	3.9 Reduce deaths and illnesses from pollution	Unknown		
 Clean water and sanitation	6.3 Improve water quality			
	6.4 Increase water use and ensure sustainable withdrawals			
	6.5 Implement integrated water resource management			
	6.6 Protect and restore water-related ecosystems			
 Sustainable cities and communities	11.3 Enhance inclusive and sustainable urbanization			
	11.4 Protect and safeguard cultural and natural heritage			
	11.5 Reduce deaths and the number of people affected by disasters			
	11.6 Reduce the adverse environmental impact of cities			
	11.7 Provide universal access to green and public spaces			

Fig 7. (SPM) SDGsに向けてのサポート状況. Partial Supportも不十分 (1/2)




 Climate action	13.1 Strengthen resilience to climate-related hazards			
	13.2 Integrate climate change into policies, strategies and planning			
	13.3 Improve education and capacity on mitigation and adaptation	Unknown		
	13a Mobilize US\$100 billion/year for mitigation by developing countries	Unknown		
	13b Raise capacity for climate change planning and management	Unknown		
 Life below water	14.1 Prevent and reduce marine pollution			
	14.2 Sustainably manage and protect marine and coastal ecosystems			
	14.3 Minimize and address ocean acidification			
	14.4 Regulate harvesting and end overfishing			
	14.5 Conserve at least 10 per cent of coastal and marine areas			
	14.6 Prohibit subsidies contributing to overfishing			
	14.7 Increase economic benefits from sustainable use of marine resources			
 Life on land	15.1 Ensure conservation of terrestrial and freshwater ecosystems			
	15.2 Sustainably manage and restore degraded forests and halt deforestation			
	15.3 Combat desertification and restore degraded land			
	15.4 Conserve mountain ecosystems			
	15.5 Reduce degradation of natural habitats and prevent extinctions			
	15.6 Promote fair sharing of benefits from use of genetic resources			
	15.7 End poaching and trafficking			
	15.8 Prevent introduction and reduce impact of invasive alien species			
	15.9 Integrate biodiversity values into planning and poverty reduction			
	15a Increase financial resources to conserve and sustainably use biodiversity			
15b Mobilize resources for sustainable forest management				

Fig 7. (SPM) SDGsに向けてのサポート状況. Partial Supportも不十分 (2/2)

D. 変革を促す協調的な努力を今すぐ始めることで、自然の保全、再生と持続的な利用と国際的な社会目標達成を両立できる

- 国際協力と現場レベルの対策のリンクづけ、科学、資金と全てのアクターの参加と合意に基づく国際目標の更新が鍵
- 主な手段（レバー）：①インセンティブと能力形成；②分野横断の協力；③先制行動；④レジリエンスと不確実性を織り込んだ意思決定；⑤環境法とその実施
- 主な介入点（レバレッジ・ポイント）：①豊かな生活のビジョン；②消費と廃棄の絶対量；③価値観と行動；④不平等；⑤保全の正義と包摂性；⑥外部性とテレカップリング；⑦技術、革新と投資；⑧教育と知識の形成・共有
- 先進国と途上国に求められる変革の違い、情報に基づく包括的、統合的、順応的ガバナンスによるリスク低減
- 先住民と地域コミュニティの知識や慣行、制度などを活かす共同管理

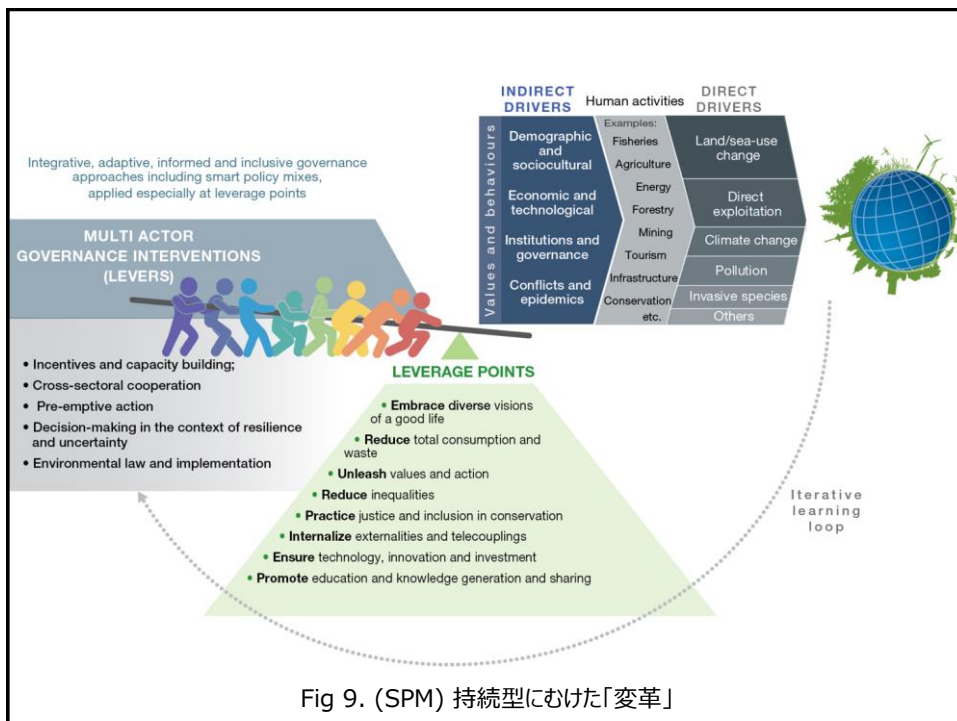


Fig 9. (SPM) 持続型にむけた「変革」



新作業計画

第一期作業計画レビューを終えて

2019年 5月14日

名古屋大学大学院

環境学研究科 香坂玲 (教授)

IPBES7 (パリ開催) 報告会

IPBES-7結果報告会・国内連絡会

Ryo KOHSAKA, Dr. Professor

Graduate School of Environmental Studies, Nagoya University

Professor



レビューと 新作業計画

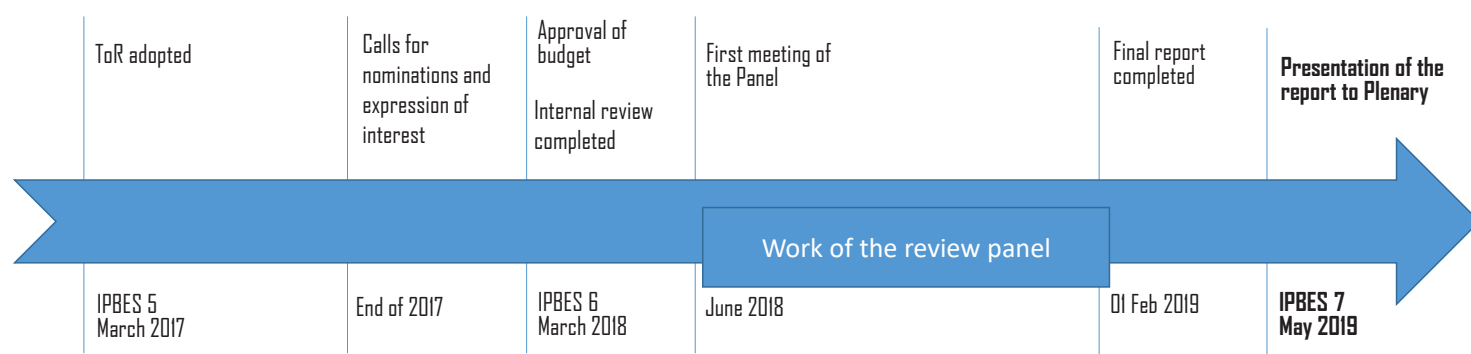
- 第一期作業計画 (2014-2018)のレビュー
内部と外部レビュー 結果
- 新作業計画

レビューと 新作業計画

- 第一期作業計画（2014-2018）のレビュー
内部と外部レビュー 結果
- 新作業計画

The institutional context for the review

- Commissioned by the Plenary of IPBES
- Comprising an internal and external element
- Reviewing achievements to inform the next work programme



外部レビューパネル・メンバー

パネルメンバー
Panel members



Peter Bridgewater (豪 共同議長)
 Maria R. Benites (ペルー 共同議長)
 Ryo Kohsaka (日本)
 Doug Beard (米国 新Bureau)
 Nicholas King (南ア)
 Albert van Jaarsveld (IIASA 南ア)
 Selim Louafi (仏)
 Joseph Mulongoy (加・コンゴ)
 Kalpana Chaudhari (印)
 Karen Jenderedijan (アルメニア)

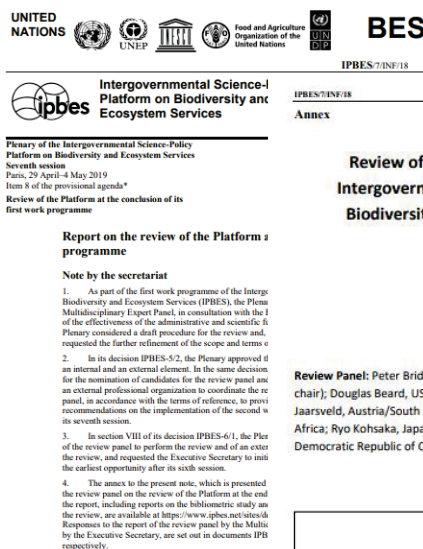
事務局
Coordinating body



www.council.science



IPBES/7/INF/17
 Activities to implement recommendations
 arising from the internal review report



IPBES/7/INF/18
 Report on the review of the Platform at the end
 of its first work programme

Review of the first work programme of the
 Intergovernmental Science-Policy Platform on
 Biodiversity and Ecosystem Services (IPBES)

Review report
 01 February 2019

Review Panel: Peter Bridgewater, Australia (co-chair); Marina Rosales, Peru (co-chair); Douglas Beard, USA; Kalpana Latikumar Chaudhari, India; Albert S. van Jaarsveld, Austria/South Africa; Karen Jenderedijan, Armenia; Nicholas King, South Africa; Ryo Kohsaka, Japan; Selim Louafi, France; Kalemiani Joseph Mulongoy, Democratic Republic of Congo/Canada.

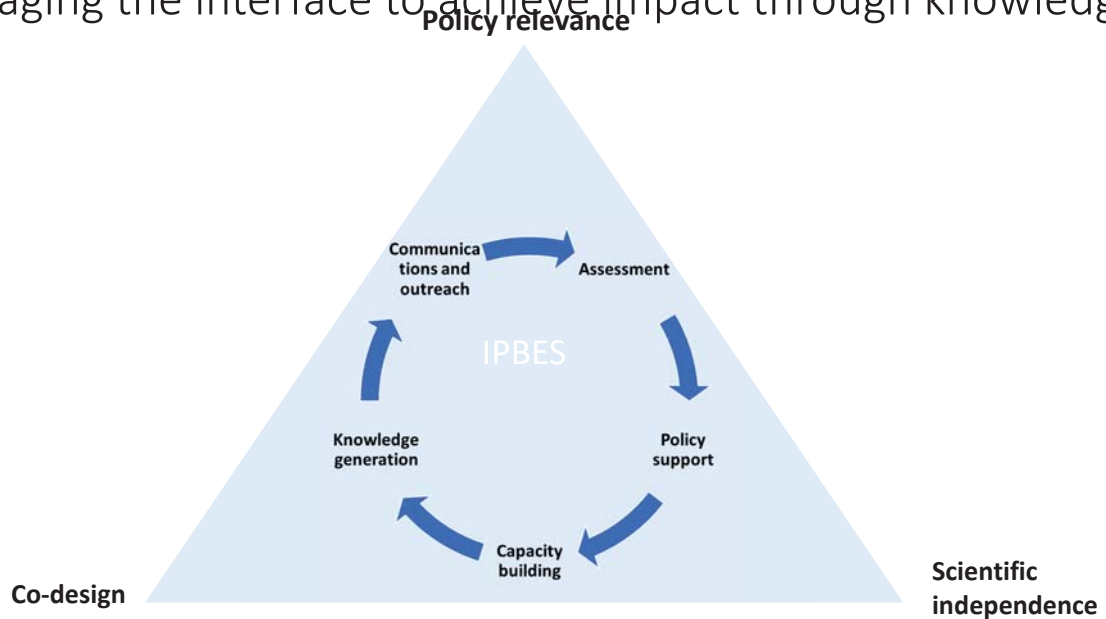


The International Science Council is a non-governmental organization with a unique global membership that brings together 40 international scientific Unions and Associations and over 140 national and regional scientific organizations including Academies and Research Councils.

The International Science Council was selected by the Bureau and the Multidisciplinary Expert Panel of IPBES as external professional organization to coordinate the review of IPBES at the end of its first work programme. The review was conducted by the review panel.

Lead coordination: Anne-Sophie Stévenance (ISC)
 Methodological support and expert advice: Zaida Ofré (independent evaluation specialist)
 Overall support: Nora Papp (ISC)

Managing the interface to achieve impact through knowledge



財政に関わる指摘も

内容とあわせて
財政的持続性も重要

長期的な財政的な安定がなければ
長期的な効果は得られない

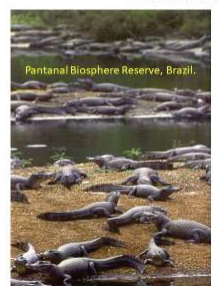
- * 拠出金の偏り、不定期 その他
- * フランス政府派遣のファンドレーザの効果
- * ログ使用の問題



Key message 5

IPBES must secure its financial sustainability in the long term, if it is to have long-term effectiveness.....

Or.... Beware the crocodilians!



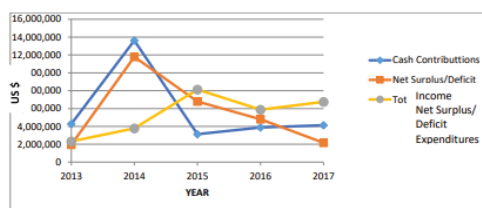


Figure 3: Summary of IPBES income and expenditure patterns for the period 2013-2017

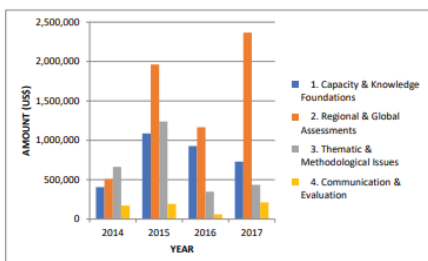


Figure 4: Expenses incurred to implement the four objectives of IPBES (2013-2017)

Finding 37: The available resources have been effectively and efficiently managed to date. The

Finding 36: Some members have contributed only sporadically or not at all to date. This does not bode well for the sustainable operations of IPBES and should be rectified.

Table 6: Summary of cash contributions received from 38 countries from 2013 to 2017.

Country	2013	2014	2015	2016	2017	Total
Australia	17,919	14,702				32,621
Belgium			118,243	76,399		194,642
Canada**	38,314	36,496	30,098	30,610	51,618	187,136
Chile		23,136	14,966	13,750		51,852
China	160,000	90,000	2,000			352,000
Denmark	37,037					37,037
European Union						0
Finland	25,885	276,626				302,511
France*	270,800	247,611	294,291	752,218	190,268	1,655,188
Germany**	1	1,800,129				1,800,130
India	10,000	10,000				20,000
Japan	297,900	100,000	100,000	100,000	201,311	899,211
Latvia		4,299	1,844	1,889		8,032
Malaysia			100,000			100,000
Morocco					21,697	21,697
Netherlands		618,428		618,843		1,237,271
New Zealand	16,094	17,134	18,727	16,258		68,213
Norway	140,458	8,118,890	58,257	372,420		9,690,025
Republic of Korea						0
South Africa		30,000				30,000
Sweden**	228,349	194,368	128,535	116,621	251,485	925,358
Switzerland	70,144	84,783	84,000	84,000		323,927
UK&I & Ireland		1,046,143		228,398		1,274,541
USA	500,000	500,000	471,500	516,306	500,000	2,493,806
Total	4,273,619	13,620,391	3,310,442	3,003,521	4,524,793	38,733,766

Finding 38: The Platform relies heavily on in-kind contributions from the scientific community, partners and nation States from the self-funded participation of experts from developed countries in the MSP to their participation in assessments and other activities.

Some MSP members from developed countries that have not established IPBES funding have self-funded their attendance at the assessment missions. These costs are normally considered as in-kind.



Intergovernmental Science-Policy Platform on Biodiversity and Ecosystem Services

IPBES/7/L.2

Distr.: Limited

30 April 2019

Original: English

Plenary of the Intergovernmental Science-Policy Platform on Biodiversity and Ecosystem Services
Seventh session
Paris, 29 April-4 May 2019
Agenda item 5

Report of the Executive Secretary on the implementation of the first work programme for the period 2014-2018

Draft decision IPBES-7/[XX]: Review of the Intergovernmental Science-Policy Platform on Biodiversity and Ecosystem Services at the conclusion of its first work programme

The Plenary,

Welcoming the report of the Executive Secretary on the implementation of the first work programme of the Intergovernmental Science-Policy Platform on Biodiversity and Ecosystem Services,¹

Acknowledging with appreciation the outstanding contributions made by all experts involved in the implementation of the first work programme of the Platform, and thanking them and their institutions for their unwavering commitment thereto,

Recalling its decision IPBES-5/2, in which it approved the terms of reference for the review of the Platform at the conclusion of its first work programme,

Recalling also section VIII of its decision IPBES-6/1, in which it took note of the report prepared by the internal review team,²

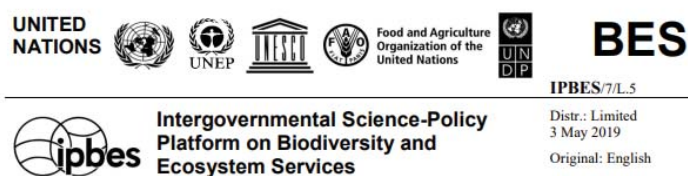
1. Takes note of the activities undertaken to implement the recommendations from the report prepared by the internal review team;³

2. Welcomes the report on the review of the Platform at the conclusion of its first work

IPBES/7/L2
Draft decision
IPBES-7/[XX]:
Review of the
Intergovernmental
Science-Policy
Platform on Biodiversity
and Ecosystem
Services at the
conclusion of
its first work
programme

レビューと 新作業計画

- 第一期作業計画（2014-2018）のレビュー
内部と外部レビュー 結果
- 新作業計画（2030年までのローリング計画）



Plenary of the Intergovernmental Science-Policy Platform on Biodiversity and Ecosystem Services
Seventh session
Paris, 29 April–4 May 2019
Agenda item 9
Next work programme of the Platform

Draft decision IPBES-7/[XX]: Rolling work programme of the Intergovernmental Science-Policy Platform on Biodiversity and Ecosystem Services up to 2030

The Plenary,

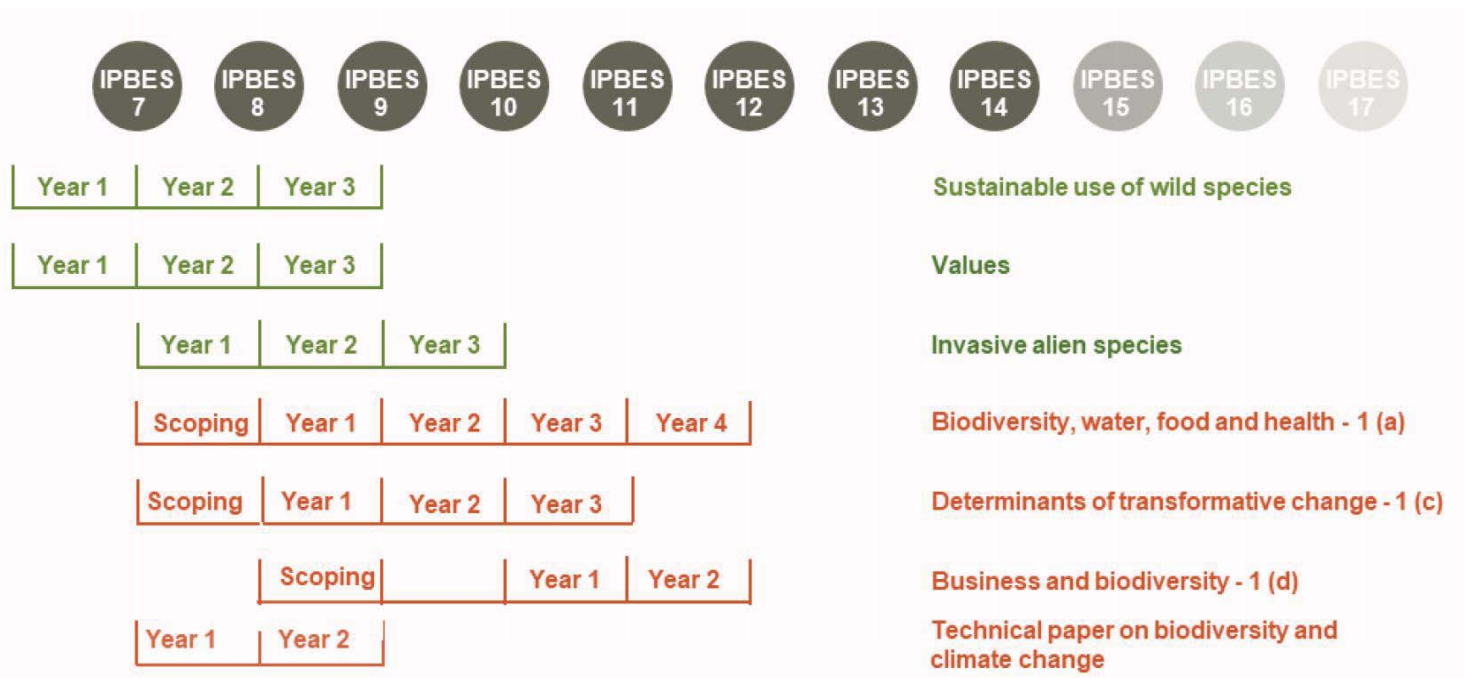
Recalling its decisions IPBES-5/3 and IPBES-6/2,

Acknowledging with appreciation the efforts of the Bureau and the Multidisciplinary Expert Panel and the contributions by members and stakeholders of the Intergovernmental Science-Policy Platform on Biodiversity and Ecosystem Services in the development of the rolling work programme of the Platform up to 2030,

Welcoming the requests, inputs and suggestions on short-term priorities and longer-term strategic needs, including those submitted by the relevant bodies of multilateral environmental agreements related to biodiversity and ecosystem services,

Taking note of the report by the Multidisciplinary Expert Panel and the Bureau¹ containing a

IPBES/7/L5
Draft decision IPBES-7/[XX]: Rolling work programme of the Intergovernmental Science-Policy Platform on Biodiversity and Ecosystem Services up to 2030



Overall objective of IPBES: To strengthen the science-policy interface for biodiversity and ecosystem services for the conservation and sustainable use of biodiversity, long-term human well-being and sustainable development

Policy framework of the IPBES rolling work programme up to 2030: The 2030 Agenda for Sustainable Development, including the Sustainable Development Goals, the biodiversity-related conventions and other biodiversity and ecosystem services processes

OBJECTIVES of the work programme		TOPIC 1 Understanding the importance of biodiversity in achieving the 2030 Agenda for Sustainable Development	TOPIC 2 Understanding the underlying causes of biodiversity loss and determinants of transformative change and options for achieving the 2050 Vision for Biodiversity	TOPIC 3 Measuring business impact and dependence on biodiversity and nature's contributions to people	Supporting the achievement of the overall objective of IPBES
OBJECTIVE 1 Assessing knowledge		Deliverable 1 (a): Assessing interlinkages among biodiversity, water, food and health (thematic assessment) Deliverable 1(b): Assessing the interlinkages between biodiversity and climate change (technical paper)	Deliverable 1 (c): Assessing the underlying causes of biodiversity loss and the determinants of transformative change and options for achieving the 2050 Vision for Biodiversity (thematic assessment)	Deliverable 1 (d): Assessing the impact and dependence of business on biodiversity and nature's contributions to people (fast-track methodological assessment)	
OBJECTIVE 2 Building capacity	(a) Enhanced learning and engagement (b) Facilitated access to expertise and information (c) Strengthened national and regional capacities	(*)	(*)	(*)	(*)
OBJECTIVE 3 Strengthening the knowledge foundations	(a) Advanced work on knowledge and data (b) Enhanced recognition of and work with indigenous and local knowledge systems	(*)	(*)	(*)	(*)

OBJECTIVES of the work programme		TOPIC 1 Understanding the importance of biodiversity in achieving the 2030 Agenda for Sustainable Development	TOPIC 2 Understanding the underlying causes of biodiversity loss and determinants of transformative change and options for achieving the 2050 Vision for Biodiversity	TOPIC 3 Measuring business impact and dependence on biodiversity and nature's contributions to people	Supporting the achievement of the overall objective of IPBES
OBJECTIVE 4 Supporting policy	(a) Advanced work on policy instruments, policy support tools and methodologies (b) Advanced work on scenarios and models of biodiversity and ecosystem functions and services (c) Advanced work on multiple values	(*)	(*)	(*)	(*)
OBJECTIVE 5 Communicating and engaging	(a) Strengthened communication (b) Strengthened engagement of Governments (c) Strengthened engagement with stakeholders				
OBJECTIVE 6 Improving the effectiveness of the Platform	(a) Periodic review of the effectiveness of IPBES (b) Review of the IPBES conceptual framework (c) Improving the effectiveness of the assessment process				

今後の焦点・展開(私見)

IPBES内

- 直近 IPCC との共同レポート
- 3つの新アセス (ネクサス・気候変動・民間) 資源動員なるか
- 新提案の題材 [例] IPBES9以降の CMS(ボン条約) UNCCD 等 ecological connectivity)の検討
* 但し 関連プロセスで決議の有無

IPBES外

- 2020年愛知目標 (CBD北京COP14)
- SDGs 生物多様性のターゲット・指標 改定
- 科学者主導・寄りのイニシアティブ Future Earth GSC



ご清聴ありがとうございました

香坂 玲 名古屋大学 環境学研究科

<https://www.facebook.com/kohsaka.jp>

電子メール: kikori36@gmail.com



UNITED
NATIONS



Food and Agriculture
Organization of the
United Nations



BES



Intergovernmental Science-Policy
Platform on Biodiversity and
Ecosystem Services

IPBES/7/L.4

Distr.: Limited
2 May 2019

Original: English

Plenary of the Intergovernmental Science-Policy
Platform on Biodiversity and Ecosystem Services
Seventh session
Paris, 29 April–4 May 2019
Agenda item 6

Global assessment of biodiversity
and ecosystem services

Summary for policymakers of the global assessn biodiversity and ecosystem services

Note by the secretariat

The annex to the present note contains the key messages of the
the global assessment of biodiversity and ecosystem services, as prepare
background will be set out in an addendum hereto.

IPBES/7/L.4

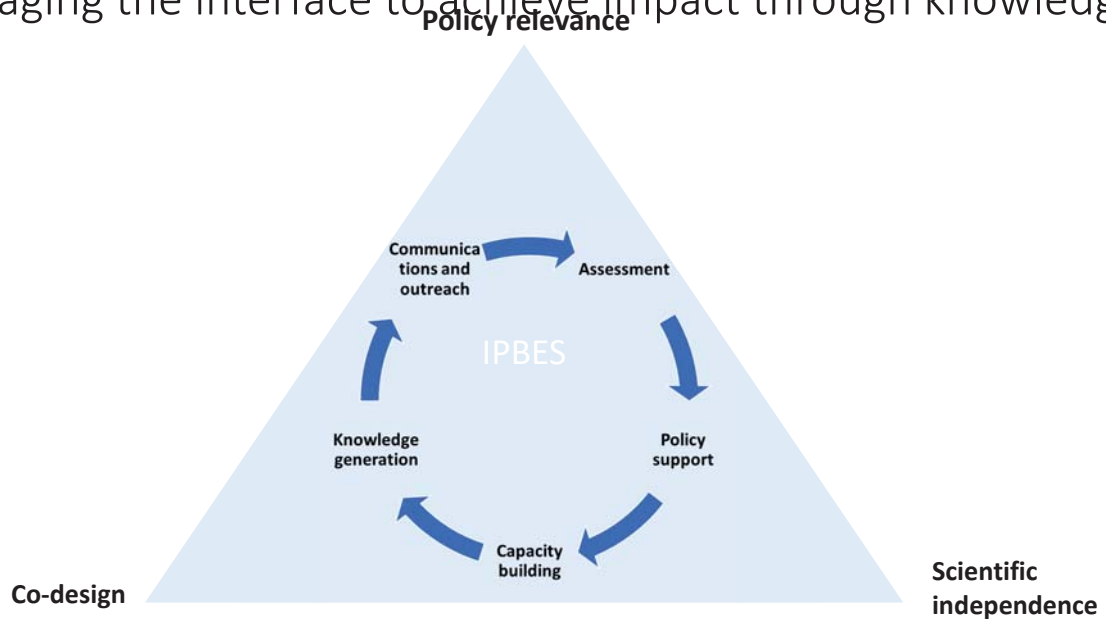
Key messages

A. Nature and its vital contributions to people, which together embody biodiversity and ecosystem functions and services, are deteriorating worldwide.

Nature embodies different concepts for different people, including biodiversity, ecosystems, Mother Earth, systems of life and other analogous concepts. Nature's contributions to people embody different concepts such as ecosystem goods and services, and nature's gifts. Both nature and nature's contributions to people are vital for human existence and good quality of life (human well-being, living in harmony with nature, living well in balance and harmony with Mother Earth, and other analogous concepts). While more food, energy and materials than ever before are now being supplied to people in most places, this is increasingly at the expense of nature's ability to provide such contributions in the future and frequently undermines nature's many other contributions, which range from water quality regulation to sense of place. The biosphere, upon which humanity as a whole depends, is being altered to an unparalleled degree across all spatial scales. Biodiversity – the diversity within species, between species and of ecosystems – is declining faster than at any time in human history.

Nature is essential for human existence and good quality of life. Most of nature's contributions to people are not fully replaceable, and some are irreplaceable. Nature plays a critical role in providing food and feed, energy, medicines and genetic resources and a variety of materials fundamental for people's physical well-being and for maintaining culture. For example, more than 2 billion people rely on wood fuel to meet their primary energy needs, an estimated 4 billion people rely primarily on natural medicines for their health care and some 70 per cent of drugs used for cancer are natural or are synthetic products inspired by nature. Nature, through its ecological and evolutionary processes, sustains the quality of the air, fresh water and soils on which humanity depends, distributes fresh water, regulates the climate, provides pollination and pest control and reduces the impact of natural hazards. For example, more than 75 per cent of global food crop types, including fruits and vegetables and some of the most important cash crops such as coffee, cocoa and almonds, rely on animal pollination. Marine and terrestrial ecosystems are the sole sinks for anthropogenic carbon emissions, with a gross sequestration of 5.6 gigatons of carbon per year (the equivalent of some 60 per cent of global anthropogenic emissions). Nature underpins all dimensions of human health and contributes to non-material aspects of quality of life – inspiration and learning.

Managing the interface to achieve impact through knowledge



Key message 1

IPBES needs to define a **vision and **mission** clarifying its role as a science-policy interface, and an **adaptive strategy** where the four functions* are seen and managed as an integrated set.**

The transformative impact of IPBES relies on all four functions of IPBES being significantly strengthened.

**assessments; knowledge generation; policy tools; capacity building*

Key message 2

IPBES needs to strengthen the policy aspects of its work if it is to fulfill its mandate as a science/knowledge-policy interface.

- IPBES needs to widen the policy and practitioner expertise included, in all phases of an assessment (including co-production of scoping and knowledge brokering amongst all actors)
- IPBES need to include in assessments a range of policy options more prominently. This is not about being prescriptive but about producing useable knowledge and tools through options (choices) for decision-makers.

Key message 3

IPBES needs to maintain the scientific independence while allowing for the co-design and co-production of assessments.

- The scientific independence of the assessment process is critical for the legitimacy and credibility of IPBES;
- A stronger engagement with all actors, especially in the early phase of pre-scoping, would strengthen the relevance of the products;
- In practice, the MEP and Bureau have overlapping roles, something to reflect on.

Key message 4

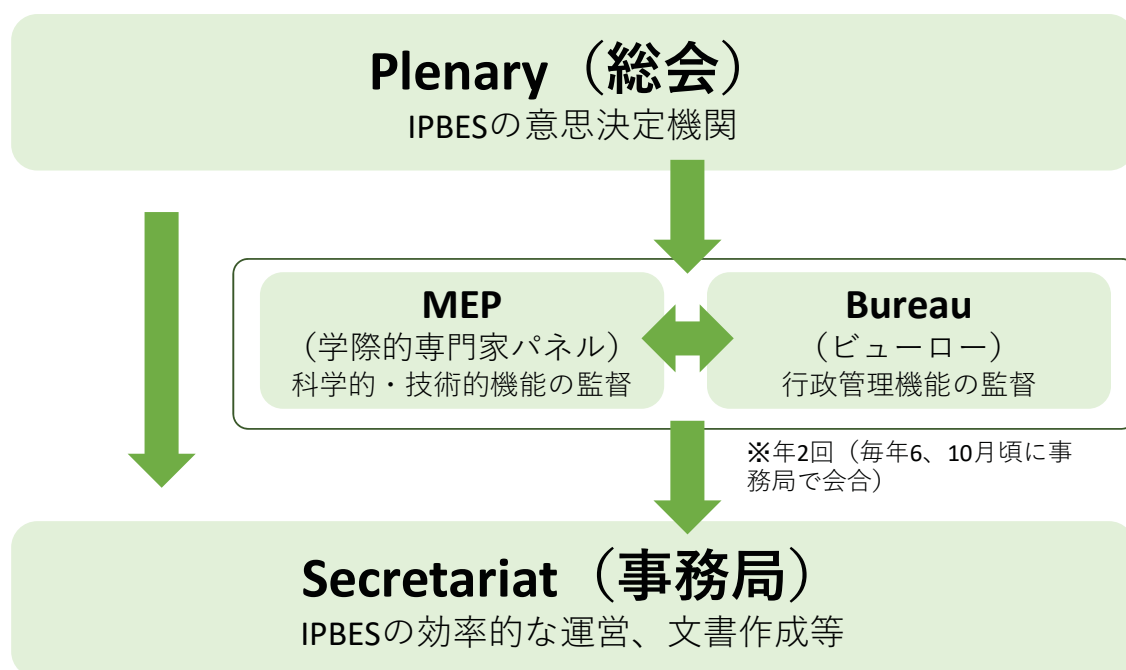
IPBES needs to develop a more strategic and collaborative approach to stakeholders.

- A differentiated approach to stakeholders (beyond the single observer category) to allow for different levels of engagement would better deliver the early promise of wider stakeholder engagement of all IPBES' work.

専門家所見

東京大学 橋本 禅

IPBESの組織体制



MEPの選定方法、役割

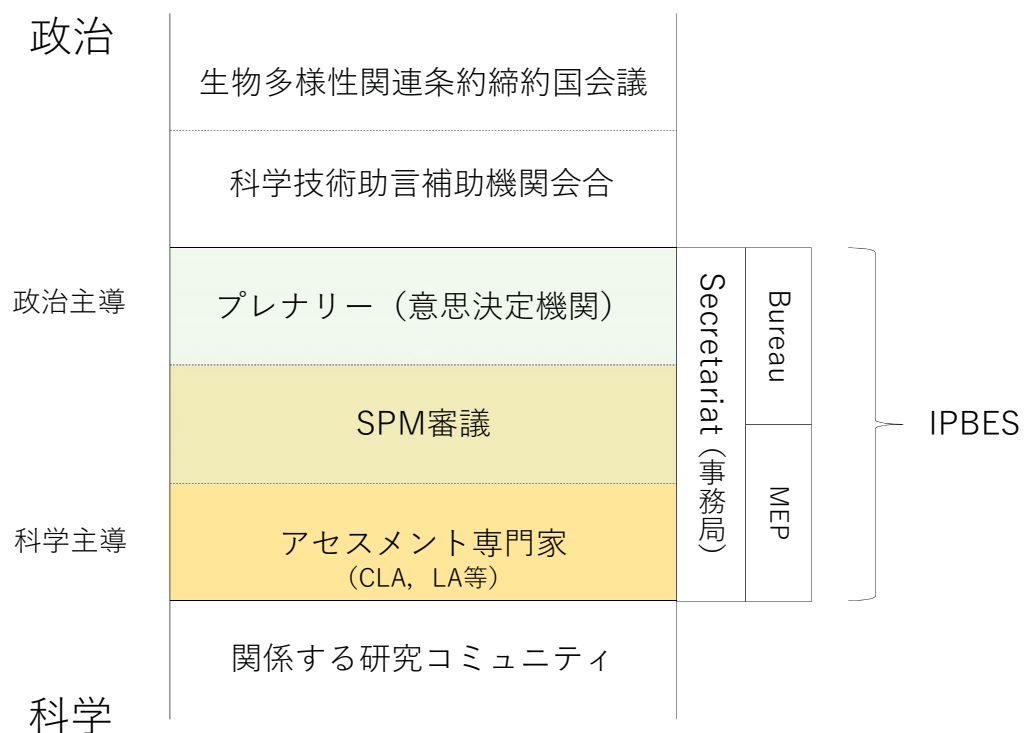
• 選出方法

- 国連の5地域区分からそれぞれ5名、計25名選出

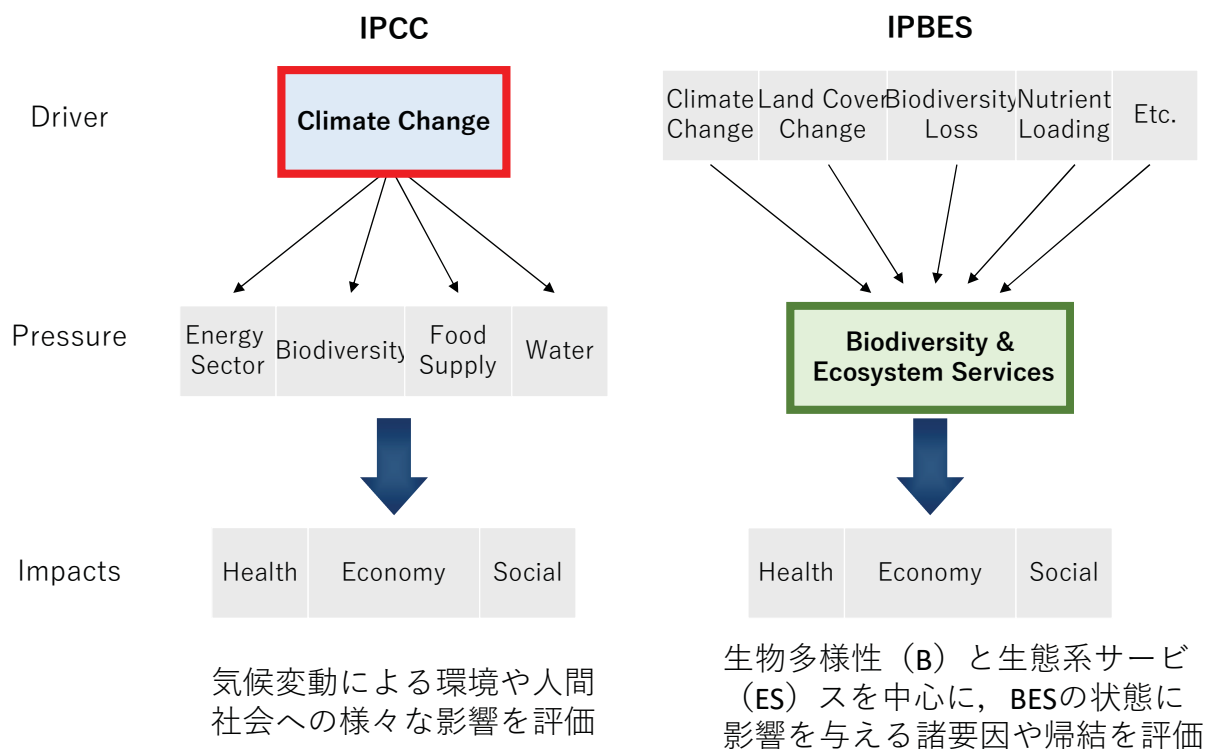
• 役割

- IPBESの作業計画に関する科学・技術面からの助言
- 科学・技術コミュニケーションに関する助言、支援
- IPBESにおけるpeer-reviewのプロセスの管理
- IPBESのもとで設立された組織（TSU、Expert Groups、Taskforces）間や、その他国際プロセスとの間の研究面での調整
- 多様な学問分野や関係者との連携
- 科学・政策インターフェイスにおいてILKを含む多様な知識体系を考慮するための方法論の検討

科学-政策インターフェイスとしてのIPBES



IPCCとIPBESの焦点の違い



IPBESのアセスメントの性質

- アセスメントの性質
 - 政策形成に有用な知見を提供するが、政策形成には直接関与せず (*policy relevant but not policy prescriptive*)
 - 「～をすべき」、 「～が求められる」はご法度

政策決定者向け要約（SPM）の構成（1）

- SPMの構成
 - ①現状・傾向（A）、②変化要因（B）のほかに、③国際目標達成の見込み（C）、④国際目標達成に示唆を与える取り組み（D）
- ※報道の多くは①現状・傾向、②変化要因に関するもの

政策決定者向け要約（SPM）の構成（2）

- キーメッセージ+バックグラウンド
 - キーメッセージの根拠はバックグラウンドに
 - バックグラウンドの根拠はフルレポートに

Key message

A5 Human actions threaten more species with global extinction now than ever before. An average of around 25 per cent of species in assessed animal and plant groups are threatened (figure SPM.3), suggesting that around 1 million species already face extinction, many within decades, unless action is taken to reduce the intensity of drivers of biodiversity loss. Without such action there will be a further acceleration in the global rate of species extinction, which is already at least tens to hundreds of times higher than it has averaged over the past 10 million years. {Fig SPM4, BG 6}

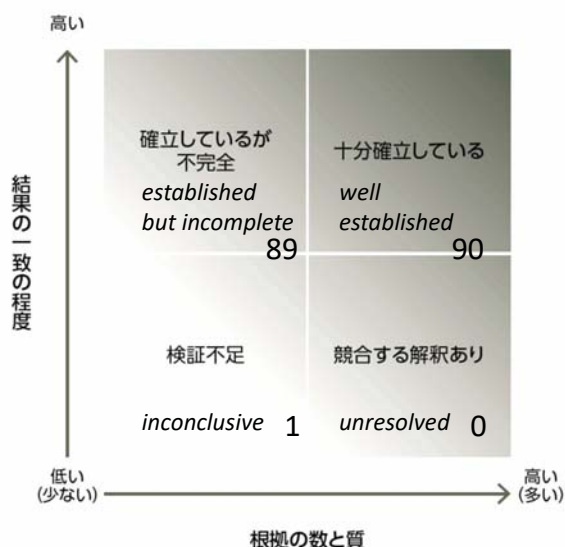
Background

6. **The global rate of species extinction is already at least tens to hundreds of times higher than the average rate over the past 10 million years and is accelerating (*established but incomplete*) {2.2.5.2.4}** (Figure SPM.3). Human actions have already driven at least 680 vertebrate species to extinction since 1500, including the Pinta Giant Tortoise in the Galapagos in 2012, even though successful conservation efforts have saved from extinction at least 26 bird species and 6 ungulate species including the Arabian Oryx, and the Przewalski's Horse {3.2.1}. The threat of extinction is also accelerating: in the best-studied taxonomic groups, most of the total extinction risk to species is estimated to arise in the past 40 years (*established but incomplete*) {2.2.5.2.4}. The proportion of species currently threatened with extinction according to the IUCN Red List criteria averages around 25 per cent across the many terrestrial, freshwater and marine vertebrate, invertebrate and plant groups that have been studied in sufficient detail to support a robust overall estimate (*established but incomplete*) {2.2.5.2.4, 3.2}. More than 40 per cent of amphibian species, almost a third of reef-forming corals, sharks and shark relatives and over a third of marine mammals are currently threatened {2.2.5.2.4, 3}. The proportion of insect species threatened with extinction is a key uncertainty, but available evidence supports a tentative estimate of 10 per cent (*established but incomplete*) {2.2.5.2.4}. Those proportions suggest that, of an estimated 8 million animal and plant species (75% of which are insects), **around 1 million are threatened with extinction (*established but incomplete*) {2.2.5.2.4}**. A similar picture also emerges from an entirely separate line of evidence. Habitat loss and deterioration, largely caused by human actions, have reduced global terrestrial habitat integrity by 30 per cent relative to an unimpacted baseline; combining that with the longstanding relationship between habitat area and species numbers suggests that around 9 per cent of the world's estimated 5.9 million terrestrial species – more than 500,000 species – have insufficient habitat for long-term survival, are committed to extinction, many within decades, unless their habitats are restored (*established but incomplete*) {2.2.5.2.4}. Population declines often give warning that a species' risk of extinction is increasing. The Living Planet Index, which synthesises trends in vertebrate populations, has declined rapidly since 1970, falling by 40% for terrestrial species, 84% for freshwater species and 35% for marine species (*established but incomplete*) {2.2.5.2.4}. Local declines of insect populations such as wild bees and butterflies have often been reported, and insect abundance has declined very rapidly in some places even without large-scale land-use change, but the global extent of such declines is not known (*established but incomplete*) {2.2.5.2.4}. On land, wild species that are endemic (narrowly distributed) have typically seen larger-than-average changes to their habitats and shown faster-than-average declines (*established but incomplete*) {2.2.5.2.3, 2.2.5.2.4}.

情報の信頼度

図 SPM. A ① 信頼度の4象限表示モデル

右上端の色の濃い領域に向かうほど信頼度が高い。



信頼度の記載方法:

- **十分確立している:** 関連情報を網羅したメタ分析や統合的分析の結果、あるいは多数の研究で同じ結果が出ている
- **確立しているが不完全:** 研究の数が少ない、関連情報を網羅した統合的な分析がない、あるいは既往研究の論拠が不十分であるが、結果が概ね一致している
- **競合する解釈あり:** 既往研究が多くあるが結果が一致していない
- **検証不足:** 根拠が不十分で、重大な知識不足がある

新作業計画について（1）

第1次作業計画（2014-2018）からの学び

・野心的計画

- ・地球規模評価、地域規模評価（4）、テーマ型評価（4）、方法論評価（2）

・IPBESの活動の方向性の明示、共有

使命—生物多様性、生態系サービスの保全、持続的な利用に向けた科学—政策インターフェースの強化

・アセスメントとIPBESの主要機能（アセスメント、知識生成、政策支援、能力養成等）との関係の強化

2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
IPBES-3	IPBES-4	IPBES-5	IPBES-6	IPBES-7	
1(a)作業計画実施に必要な最優先能力養成ニーズに対応した資金援助や現物給付の触媒					
1(b)能力養成ネットワークからの支援による作業計画実施のために必要な能力の養成					
1(c)先住民および地域住民の知識体系(ILK)との協働のための手続きとアプローチ					
1(d)政策立案のための知識ニーズ、データニーズの優先付け					
2(a)評価実施と統合についてのガイド					
2(b)生物多様性と生態系サービスに関する地域/準地域アセスメント					
2(c)生物多様性と生態系サービスに関する地球規模アセスメント					
3(a)花粉媒介アセスメント					
3(b)(i)土地劣化と再生アセスメント					
3(b)(ii)侵略的外来生物種とその管理に関するテーマ別評価					2022年→
3(b)(iii)野生種の持続可能な利用に関するテーマ別評価					2021年→
3(c)シナリオ分析とモデリングのための政策支援ツールと方法論に関する評価					
3(d)自然とその恵みに関する多様な価値観の概念化に関する方法論的評価					2021年→
4(a)アセスメントのカタログ					
4(b)知識・情報の管理					
4(c)政策立案支援ツールと方法論のカタログ					
4(d)伝達とアウトリーチ、統合戦略一式と成果と過程					
4(e)ガイダンス、効率性の評価					

新作業計画について (2)

・ ローリングプラン

- ・ 2030年までを2～3期にわけ、実施するアセスメントの計画をその都度決定（ローリングプランの導入）

・ IPBESの活動の方向性の明示、共有

使命—生物多様性、生態系サービスの保全、持続的な利用に向けた科学—政策インターフェースの強化

1. 持続可能な開発目標を達成する上での生物多様性の重要性の理解
2. 生物多様性の喪失の根本的な原因と、変革の変化の決定要因と2050年の生物多様性のビジョンを達成するための選択肢の理解
3. ビジネスの生物多様性・自然がもたらすものへの依存、生物多様性・自然がもたらすものの変化から受ける影響

・ アセスメントとIPBESの主要機能（アセスメント、知識生成、政策支援、能力養成等）との関係の強化

Overall objective of IPBES					
To strengthen the science-policy interface for biodiversity and ecosystem services for the conservation and sustainable use of biodiversity, long-term human well-being and sustainable development					
Policy framework of the IPBES rolling work programme up to 2030					
The 2030 Agenda for Sustainable Development, including the Sustainable Development Goals, the biodiversity-related conventions and other biodiversity and ecosystem services processes					
OBJECTIVES of the work programme		TOPIC 1 Understanding the importance of biodiversity in achieving the 2030 Agenda for Sustainable Development	TOPIC 2 Understanding the underlying causes of biodiversity loss and determinants of transformative change and options for achieving the 2050 Vision for Biodiversity	TOPIC 3 Measuring business impact and dependence on biodiversity and nature's contributions to people	Supporting the achievement of the overall objective of IPBES
OBJECTIVE 1 Assessing knowledge		Deliverable 1 (a): Assessing interlinkages among biodiversity, water, food and health (thematic assessment) Deliverable 1(b): Assessing the interlinkages between biodiversity and climate change (technical paper)	Deliverable 1 (c): Assessing the underlying causes of biodiversity loss and the determinants of transformative change and options for achieving the 2050 Vision for Biodiversity (thematic assessment)	Deliverable 1 (d): Assessing the impact and dependence of business on biodiversity and nature's contributions to people (fast-track methodological assessment)	
OBJECTIVE 2 Building capacity	(a) Enhanced learning and engagement	(*)	(*)	(*)	(*)
	(b) Facilitated access to expertise and information	(*)	(*)	(*)	(*)
	(c) Strengthened national and regional capacities	(*)	(*)	(*)	(*)
OBJECTIVE 3 Strengthening the knowledge foundations	(a) Advanced work on knowledge and data	(*)	(*)	(*)	(*)
	(b) Enhanced recognition of and work with indigenous and local knowledge systems	(*)	(*)	(*)	(*)
OBJECTIVE 4 Supporting policy	(a) Advanced work on policy instruments, policy support tools and methodologies	(*)	(*)	(*)	(*)
	(b) Advanced work on scenarios and models of biodiversity and ecosystem functions and services	(*)	(*)	(*)	(*)
	(c) Advanced work on multiple values	(*)	(*)	(*)	(*)
OBJECTIVE 5 Communicating and engaging	(a) Strengthened communication				
	(b) Strengthened engagement of Governments				
	(c) Strengthened engagement with stakeholders				
OBJECTIVE 6 Improving the effectiveness of the Platform	(a) Periodic review of the effectiveness of IPBES				
	(b) Review of the IPBES conceptual framework				
	(c) Improving the effectiveness of the assessment process				

(*) Specific deliverables to be developed by task forces

向こう3～4年程度で着手予定のアセスメント

トピック1：生物多様性・水・食料・健康の相互関連

Deliverable 1 (a): Assessing **interlinkages among biodiversity, water, food and health**

Deliverable 1(b): Assessing the **interlinkages between biodiversity and climate change**

トピック2：根本的変革の決定因と選択肢

Deliverable 1 (c): Assessing the underlying causes of biodiversity loss and the **determinants of transformative change and options** for achieving the 2050 Vision for Biodiversity

トピック3：ビジネスと生物多様性

Deliverable 1 (d): Assessing the **impact and dependence of business on biodiversity and nature's contributions to people**



ipbes 侵略的外来種に関するテーマ別評価

2019年5月14日(月)
IPBES第7回総会結果報告会

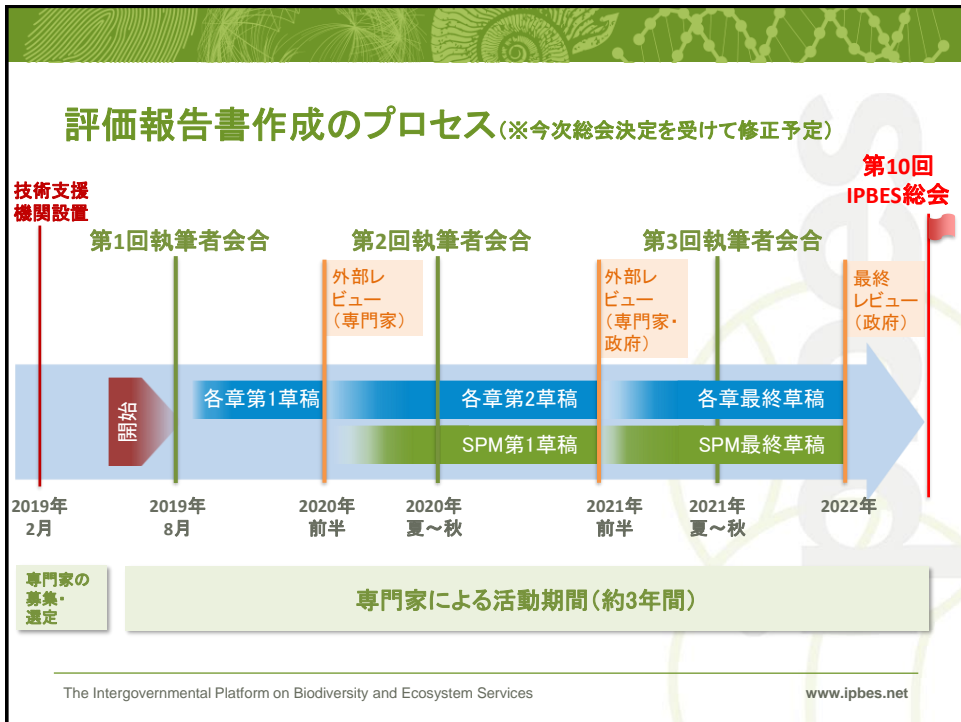
守分 紀子
IPBES侵略的外来種評価技術支援機関

www.ipbes.net

UN environment | United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization | Food and Agriculture Organization of the United Nations | UNDP

IPBES侵略的外来種に関するテーマ別評価の概要

- 作業計画2014-2018で規定された成果物の一つ。第6回総会(2018年3月)において評価の実施が決定
- 第7回総会以降に開始され、**世界約70名**の専門家により、**約3年間**かけて評価報告書を作成予定
- 侵略的外来種の**世界的な動向とその要因、社会経済・環境への影響、政策や対処手法のオプション**等についてとりまとめる。**ポスト愛知目標やSDGsの達成に向けた取り組みへの貢献**が期待
- アジア・オセアニア地域評価に続き、環境省の支援により、(公財)地球環境戦略研究機関に**技術支援機関**が設置



生物多様性日本基金 IPBES能力構築プロジェクトの概要について

地球環境戦略研究機関
東京サステイナビリティフォーラム
中島 尚子



生物多様性日本基金 IPBES能力構築プロジェクト

- プロジェクト名称:
“IPBESアジアオセアニア地域アセスメント実施のための能力構築プロジェクト”
- 実施機関:
地球環境戦略研究機関(IGES)
(生物多様性条約事務局との協定により実施)
- 実施時期:
2016年4月～2020年6月(予定)

プロジェクト実施項目

◆ 項目1: 先住民・地域住民の知識体系(ILK)の
地域アセスメントへの統合化

3回のILK準地域ワークショップを開催
(2016年10～12月)
(ネパール、タイ、ニュージーランド)

◆ 項目2: シナリオとモデリングの方法論に関する
アセスメント成果の地域アセスメントへのイン
プット

専門家ワークショップの開催(2016年11月)
(神奈川・葉山)

□ 項目3: 地域アセスメント成果の政策決定者へ
の提供と利用促進

[アジア太平洋地球変動研究ネットワーク(APN)共同実施]

3

www.iges.or.jp

地域アセスメント成果を政策決定に活用するための
科学－政策対話 (Science-policy dialogues)➤ 南アジア・西アジア準地域会合: 2019年2月27－
28日、カトマンズ(ネパール)

15か国約60名が参加

➤ オセアニア準地域会合: 2019年4月4－5日、
キャンベラ(豪州)

15か国約40名が参加

✓ 東南アジア・北東アジア準地域会合: 2019年
10月22－23日、バンコク(タイ)(予定)

4

www.iges.or.jp